



念願の「マイクロ水力発電」実証実験へ!!

堀米在住の大塚康生さん(67)は、農業用水路の落差を利用して、マイクロ水力発電(200ワット)の実証実験を、1月から行っています。

場所は小柴で、国道158号沿い一之瀬脳神経外科病院駐車場の東、2つの水路が交差する場所16㎡を使用し、1・8mの落差で発電しています。

カナダ設計、ベトナム製造の発電機を購入し、自力で組み立て、最大出力200ワットを発電、市道沿い60〜80mの間に4基の街灯を設置して、近隣の住民に喜ばれています。

大塚さんは、設備関係の仕事を定年退職後、長年趣味としてきた水力発電を実践されて、2カ所は県外、小柴で3カ所目だそうです。

実証に当たって一番の難問は、農業用水のゴミ掃除で、1日6回見回りするうち、3回はゴミとり。ゴミはベットボトル、野菜くず、肥料袋等で、これらが無ければ、もって発電は楽になりますと話していました。

川を愛する気持ちを皆が持つて、ゴミを川に捨てないで、きれいな流れにしたいものです。

大塚さんには水力発電をもっと続けて欲しいとの要望もあつて、今後の抱負として、場所さえあればもっと増やしてゆきたい。苦労はあるが、好きな事だけに楽しみですと、ロマンを語ってくれました。



| | |
|-------------|---------|
| 平成26年7月1日現在 | |
| 世帯数 | 2,795世帯 |
| 男 | 3,437人 |
| 女 | 3,598人 |
| 総人口 | 7,035人 |

**島立中央保育園
園庭芝生化**



5月12日、島立中央保育園で、芝の種まきが行われました。これは、すべての公立保育園の園庭芝生化を推進する市の方針に沿ったもので、今年から来年にかけて市内のすべての園で芝生化が完了する予定です。

島立中央保育園は、ゴールデンウィークまでに園庭の一部の掘り起こしや配管工事を済ませました。また、園長先生は、園児たちが種まきができるよう、業者さんに配慮してもらったとのこと。

当日は強風でしたが、園児たちは班ごとに芝の種をまいていました。種は小さな穴の開いたベットボトルに入っており、それを振ると種がちよつとずつ出てくるようになっていきます。「何の種か知ってる?」と記者がたずねたところ、「よくわからない!」とのこと。日頃、二

十日大根などの野菜の種まきなどはしているそうですが、芝は難しかったかも。

種をまいた後は、スプリンクラーで水やりです。園児たちは噴き出す水に驚いたり水を追いかけてたりして喜んでいました。2、3週間ほどで芽が出て、芝生として使えるようになるのは8月ごろだそうです。

**沙田神社の
茅の輪くぐり**

6月30日、沙田神社で水無月祓いの茅の輪くぐりが行われました。今年前半の穢れを払い、後半の無事を祈願する神事で、古くから民間信仰として行われてきたものです。

祝詞の後、宮司が「水無月の夏越の祓いする人は千歳の命延ぶというなり」と詠い、茅の輪をくぐると、神社総代、一般参加者が続き、8の字を描くように3回くぐります。歌は3番まであります。

この日は、お年寄りや幼児を連れた若夫婦なども茅の輪くぐりをしました。

保育園児たちは翌日、茅の輪くぐりに来ました。年長の子たちは輪の前で頭を下げ、神妙な顔でくぐる子、走って行く子、みんな元気に半年が送れるように祈ったでしょう。

島立地区町会対抗球技大会

5月25日(日)に島立地区町会対抗球技大会が盛大に開催されました。各種目の結果は以下のとおりです。



《卓球》

- 優勝：北栗
- 準優勝：南栗
- 第3位：三の宮

《ゲートボール》

- 60歳以上の部
- 優勝：大庭
- 準優勝：南栗
- 第3位：北栗

●一般の部

- 優勝：三の宮
- 準優勝：堀米
- 第3位：南栗

《ソフトバレーボール》

- 優勝：南栗A
- 準優勝：三の宮A
- 第3位：北栗A



シリーズ 島立地区の四季 ②



③花壇づくりと花いっぱい運動

松本は小松二三夢さん提唱の「花いっぱい運動」の発祥地。一般市民の他、町会・高齢者クラブなどの手で植えられた花が街路や広場に季節の彩を添え、また自宅の花壇を公開している方も現在50人を超えています。

島立でも各町会で高齢者クラブなどがこの活動に取り組んでおり、市の後援もあって、毎年5月末頃には色鮮やかな花壇が各所にお目見えします。



②入学式

小学校の入学式は、新入生にとっても父母にとっても大切な一日です。今でもこの日のために祖父母などが心を込めたランドセルなどを贈る習慣が生きています。お家の方と一緒に赤飯を提げて親戚へご挨拶に行つたことなどを記憶している方も多いでしょう。

今を盛りと咲き誇る桜の下での入学式、上級生や先生方に迎えられるの新しい人生のスタートは、多くの人たちの大切な思い出になっています。



①お花見

桜の花見が庶民生活に定着したのは江戸中期、染井吉野の普及に伴って庶民馴染みの桜の名所も生まれました。花見と云えば桜の下での宴が連想されますが、夜桜の下を散策し、鑑賞するのもまた一つ味があります。

残念ながら島立には桜の名所と騒がれる所はないですが、住民の馴染みの名所はチビッコ広場など、常会のお花見会などにも利用されています。村の中に「私の」桜の名所を作りませんか。



⑥麦刈り

麦が黄金色に実る6月下旬は「麦秋」という風情ある名で呼ばれ、特徴的な農村風景でしたが、麦作の衰退と共に昭和後半には見られなくなりました。

麦刈りは猛暑と麦の芒の痒さで、子供たちにとっては嫌な作業でしたが、二毛作田ではこの後に後田の田植えを控えていますから、情緒を味わう暇もない忙しい仕事でもあったわけです。

復活した休耕田の麦秋は、機械化の時代のせいから一つ風情に欠ける感です。



⑤端午の節句

男の子を持つ家ではその健やかな成長を願って5月5日、端午の節句を祝います。松本は月遅れです。

この日は鯉のぼり、武者人形などを飾り、軒先に菖蒲と蓬を挿し、菖蒲湯に入ります。内飾りに柏餅を供えることが多くなったのは明治以後で、それ以前は粽を供えたそうです。

近年は、各家庭で鯉のぼりを飾ることは少なくなり、川の上や広場に沢山の鯉のぼりを泳がせる新しい飾りも多くなっています。



④田植え

田植えと云えば、昔は蓮華の花が終わって梅雨時の作業でしたが、今は5月中旬が最盛期です。昔はこの日は家族総出で結仲間の女の人たちが手伝いに出て、大勢で賑やかに植えました。手伝いの人たちには鯖の味噌煮、鯰と露の煮つけなどを馳走するのが慣例でした。

田植えも昭和末には機械化が進み、手植えの田植え風景も神社の斎田や小学校の体験学習などを除けばほとんど見られなくなりました。